

「地域活性化及び遊休農地解消に向けた取り組みについて」

樋沢高冷地農業活性化組合
・岡谷市農業委員会

写真①

○スイートコーン栽培について

岡谷市樋沢地区では農業従事者の高齢化や後継者不足等により遊休農地が増加していき、地域農業が停滞しつつあった。

そこで、樋沢高冷地農業活性化組合（代表：山田千秋、組合員：7名）では、地域の活性化や遊休農地解消を目指して、樋沢の冷涼な気候に適した農産物を導入して付加価値をつけ販売できる方法を検討し、平成20年度から高糖度スイートコーンの導入を始めた。

収穫したスイートコーンは、樋沢地区内での朝市や岡谷市内のスーパーマーケットで販売したり、岡谷市農業祭で販売したりして大変好評であり、出荷後即完売が続いている。

栽培農地は、遊休農地を復旧したり、作目転換を行ったりして、現在では約2haに拡大している。

今後も地域住民の理解や協力を得ながら、栽培農地拡大をしていきたい。

また、樋沢のスイートコーンとしてブランドが定着するように、広く市民等に樋沢のスイートコーンをPRして、より一層の販売促進を目指して、地域活性化や遊休農地解消に取り組んでいきたい。



写真②

○アマワラビ栽培について

岡谷市農業委員会（農産物振興対策部会）が獣害にならない作物として平成17年から試験栽培を開始し、一定の成果を得たことから、遊休農地解消の有効作物として広く市民に普及しようと取り組んでいる。

現在、モデルほ場は、市内2ヶ所で1,000㎡ほど。

平成22年4月には栽培講習会を開催して、モデルほ場で栽培していたアマワラビの根を掘り取り、参加者40名に5kgずつ無償で苗を配布した。

栽培者に対しては、追跡調査を行い、栽培マップを作成して、栽培場所の確認や栽培指導を行っている。

今後は、引き続きアマワラビが獣害や遊休農地解消の有効作物である旨の周知、栽培普及に努め、合わせて販売方法の検討や加工品としての可能性を模索していきながら「岡谷ブランド」としての確立に向けてさらなる研究を進めていきたい。



写真③



【報告：諏訪地方事務所農政課、岡谷市農業委員会】